

助成事業実施報告書

団体名 NPO法人 わんだふる

代表者・役職名 氏名 赤羽 潤子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

地域における防災リーダー養成講習の実施

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

平成18年9月1日にボランティア団体として設立したものの、行政と共働した活動を取り入れやすくすることを目的とし、翌平成19年6月6日にNPOへ移行した。

現在は、団体会員5団体・正会員10名・賛助会員48名から成り立っている。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

実体験を取り入れた講習会・講演会に参加し、防災に対する知識を学ぶことは勿論のこと、実際に防災グッズの見学・使用体験を通して、災害時に率先して地域の中心に立って活動を行えるリーダー的人材を養成したい。各地域に複数のリーダー的存在がいることにより、地域そのものが有効に機能することを目的としている。

昨年体験学習をした塾の子供たちに加え、今年は新たにスポーツ少年団・外国人ボランティア団体・高齢者などにも講習の場を広げ、「楽しみながら・親しみやすさ」という点に考慮して活動している。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

日本防災士会群馬県支部所属の複数の防災士と共に、体験型学習形式の防災教育を実施している。楽しめる・親しみやすさに重点を置くことで、子供から高齢者まで地域の住民そのものが受け入れやすい防災教育となるよう努めている。

その中でも、HUG(避難所運営の机上訓練)・炊き出し・悪天時でも室内で行えるロープワーク(遊びながらロープの結び方を学習するもので、防災のみならず生活の中で生かせるもの)は好評であり、「参考になった」「また参加したい」「自信になった」などの感想も頂いている。

また、外国人ボランティア団体「レインボウズ」の外国人を対象とした活動では、講習・体験だけでなく、地域の区長・代表などの協力を得て、日本の災害の特徴や地域性も学んでもらい、自助・共助の知識をより深めてもらった。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

リヤカー・防災工具・タンカー等、初めて「見る・体験する」人が多く、災害の場で実際にどのようなものが必要となるかを知ってもらい、またそれらが毛布や竿など身近にあるものでも代用できることを学んでもらった。町内・自主防災組織で準備したいという声が上がりが始め、講習後日にも相談を受ける件数が増えている。実際に少しずつではあるが準備を始めている地域もある。また、町内・自主防災組織独自で炊き出し訓練・避難訓練を行う地域も出てきており、行政に頼るのではなく、地域の中で力を合わせようとする意識が増してきている。同時に、地域の中で率先して訓練の計画を立てるリーダー的人材が養成されてきていることを実感できる。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

一人で避難できない災害時要配慮者などにリヤカー・タンカー等が必要であることの理解は得られるものの、実際の災害時にはまだまだ自分と自分の家族、すなわち自助に重点があり、共助への実践には不安を隠せない様子が窺える。避難袋・避難場所(家族の集合場所)などの徹底によって自助への自信を膨らませ、更に地域ごとの訓練により、地域の中で助けの必要な方・場所などを把握し、自主防災力を上げてもらいたい。自主防災組織へも取り組みは、地域によって様々であり、まだまだ意識の低い地域もあるため、地域の区長・代表を中心に積極的に投げ掛け、活動を広げて行きたい。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり 特になし

～自助・共助を身に付けよう～

『地域防災リーダー養成講座』

<日時>

2016年10月8日(土)

11:00～13:30

<場所>

自遊空間 みちくさ

<参加者>

スポーツ少年団+家族

<定員>

50名



ロープワーク
炊き出し



【防災グッズ！？】

「災害に備え、自分の命を、大切な人を守るための体験をとうして身に付けましょう。」

楽しく・遊びながらやってみよう！！。

お年よりの移動は？けが人は？どうにしたらいいの？簡易トイレの作り方？

絶対にほつれないロープの結び方。炊き出しの「火」のつけ方。知っているかな???

【申し込み・問い合わせ先】

主催：NPO法人わんだふる

☎027-322-1188

〒370-0836 群馬県高崎市若松町5-18

特定非営利
活動法人

わんだふる

避難所の運営確認

高崎で防災講座



避難所生活におけるルールを作る参加者

自主防災について学ぶ「地域ぐるみの防災講座」が8日、高崎市の中央公民館で開かれ

た。同市の区長や町内会の防災担当者ら約30人が参加し、避難所の開設方法と運営について知識を深めた。

講座は同館が主催。

6月中旬から4回実施し、日本防災士会県支部の赤羽潤子副支部長が講師を務めた。最終回のこの日は、起床時間やトイレの使用などに関する避難所生活に必要なルール作りや、災害を想定した模擬訓練を実施した。

3班に分かれた参加者は共同生活のルールについて「女性専用スペースをつくる」「情報を統一して載せる掲

示板を配置する」などと意見を出し合った。模擬訓練では、シートに設けた1人分のスペース(縦2段、横1段)に寝転がり、隣人との近さを体感した。参加した同市上小島町の本間道康さん(74)は、「実際の避難所の生活がイメージできた。地域に持ち帰り、防災に役立てたい」と話していた。